

仙台大学 広報室

Monthly Report

学校法人朴沢学園川平キャンパスグラウンド(仮称)完成式典『柿落とし』を開催



写真提供＝スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミー

9月1日(日)、懸念された雨も吹き飛ばす晴天の中、仙台大学と明成高校共用である人工芝サッカー場・400m陸上トラック・多用途クレイグラウンド等からなる「学校法人朴沢学園川平キャンパスグラウンド(仮称)」の完成式典『柿落とし』が同グラウンドで開催されました。

完成式典には、学校関係者の他、ご来賓、地域住民の皆様など計約700名が参加し、盛大に執り行われました。

完成式典で朴澤理事長・学長(写真中央)は「スポーツ活動に向けての高校用途、大学用途、さらに7年間教育という観点からの高大連携、そして地域開放という多種多様な用途に対し、科学的かつ統合的な活用を図れるように施設を配置した。本施設を各面で活用頂きたい」。また、明成高校の佐々木校長(写真右から4番目)は「震災を乗り越え、地域と共に新たな学校づくりを構築するという強い意志をもって、未来に向けた学校づくりのシンボルとなり得るようなグラウンドにしたい」とそれぞれ挨拶がありました。その後、ご来賓を代表し、仙台市の稲葉信義副市長(写真左から4番目)からご祝辞を頂きました。

また、同式典では、同グラウンド建設にご尽力頂いた方々への感謝状贈呈やテープカットも行われました。【2面に続く】

< 目 次 >

学校法人朴沢学園川平キャンパスグラウンド(仮称)完成式典『柿落とし』を開催	1
ハワイ州立大学AT研修を終えて	2
古川黎明高校の生徒14名が来訪	3
仙台大学プレゼンツ VEGALTA DANCIN' FESTA 2013	4
2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定	5
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
 広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
 にも旬な話題を提供していきたいと考えて
 おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
 広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

完成式典終了後には、オープニングイベントとして、ベガルタ仙台レディースと明成高校女子サッカー部との記念試合が行われ、大いに会場を沸かせました。その他、仙台大学陸上競技部によるクリニックや仙台大学アスレティックトレーナー部及び運動栄養サポート研究会による実演会も同時に行われ地域の方々との交流を深めるなど、大変有意義なオープニングイベントとなりました。



写真提供＝スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミー

ハワイ州立大学 (UH) アスレティックトレーニング研修アドバンスコースを終えて



国際交流担当ジュディ・エンジング氏によるオリエンテーション



UHのATルームで長年指導していらっしゃるエリック・オカザキ氏



フットボール公式試合に向けて早朝から練習に励むUHの学生たち



ATルームで遠隔授業講師の金岡友樹氏の話に耳を傾ける学生たち



大学院の授業を聴講



ATワークショップを終えて

平成25年8月25日から9月1日にかけて、ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修アドバンスコースが実施された。この研修（ビギナー・アドバンス合わせて17回目）には2～4年生の体育学科11名の学生が参加した。このアドバンスコースの主な目的は、アスレティックトレーニングにおける最先端の情報や技術を見学・体験することにある。また、現地の人々と触れ合いながら、その文化と習慣を体感できることもこの研修の良さと言える。

アドバンスコースにおいて魅力的なプログラム内容としては、献体解剖見学とアメリカンフットボール試合観戦が挙げられる。献体解剖見学は、学生たちにとってもちろん初めての経験であり、人の身体がどのような構造で成り立っているのかなどを実際の献体に見て触れながら学習できたことで、人体に対する興味がさらに深まったようであった。

アメリカンフットボールにおいては、学生たちは早朝練習の準備を手伝わせてもらうなど、アスレティックトレーナーとしての仕事を体感させていただいた。また、試合観戦は、ほとんどの学生たちにとって初めての経験であったため、ルールも詳しく理解できていない状況ではあったが、その試合の盛り上がりや雰囲気にとっても興奮し楽しんでいるようであった。

参加学生たちは、この研修を通して多くのことを学習し、日本では味わうことのできない刺激を体感できたのではないかと思う。この経験を活かしながら、学生たちの今後の人生がより豊かになることを願う。

<報告：助教 高橋陽介>

仙台大学と台湾・台東大学との「柔道合同練習会」を初開催



仙台大学柔道部と台東大学柔道部との記念撮影＝仙台大学柔道場

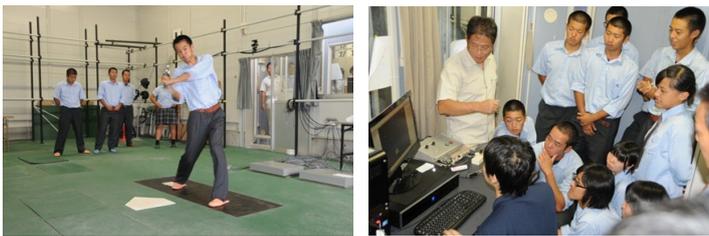
9月9日（月）～9月13日（金）までの5日間、仙台大学柔道場で仙台大学と台湾・台東大学との「柔道合同練習会」が実施されました。

本学と台東大学は、平成15年3月に国際交流協定を締結し、双方の学生が短期交換留学プログラムにより交流を図ってきましたが、柔道の合同練習会は初めて開催されました。

台東大学から男子4名・女子6名の計10名が参加し、本学柔道部と共に稽古に励み、同練習会最終日には、交流試合を通して互いに切磋琢磨しながら、国際交流を深めました。

台東大学柔道部の楊憲慈監督(写真3列目右端)は「仙台大学女子柔道部の南條和恵監督からは、寝技の基本的な動きを指導してもらえた。帰国した後も稽古を続け、もっと強くなって来年も仙台大学での合同練習を計画したい」と意欲的に話しました。

文部科学省「スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)」研究開発指定校 —宮城県古川黎明高校の生徒14名が来訪



左右：自動三次元動作分析(バイオメカニクス実験棟)＝宮西教授



左右：アスレティックトレーナールーム＝白幡新助手

9月12日（木）、文部科学省「スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)」研究開発指定校の宮城県古川黎明高校の生徒14名及び同校の昆野伸俊教諭と山口智輝教諭が、本学との連携を深めスポーツ科学の専門的な視野を広げる目的で、本学の研究施設（自動三次元動作分析装置<バイオメカニクス実験棟>・アスレティックトレーニングルーム・バイオテック室・人間環境計測制御室など）の見学に訪れました。

スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)とは「将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目指し、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う」研究指定校です。現在、全国で201校が文部科学省から研究指定校の指定を受けています。

本学を訪れた生徒たちの課題研究のテーマは、①「最強の投球術」・②「最強のバッティング」・③「50m走をいかに速く走るか」。これらのテーマについて、3つのグループに分かれて、取り組んでいます。

生徒たちを引率した山口教諭（理科）は「はじめて仙台大学に来ましたが、体力測定、三次元動作解析、動作フォームのチェック・分析、あらゆる気温・湿度を再現できる人工気候室など、最新機器を利用した測定ができる研究施設の充実に驚きの連続です」と話し、施設見学後に生徒たちは「もっと体験したかった」「三次元動作分析装置を用いて、自分のバットスイングを見ることができて良かった」「怪我をした時のテーピングの巻き方を教わられて良かった」など生き生きとした様子で話していました。

「2013年世界柔道選手権国別団体戦」日本女子代表チームが金メダル獲得— OG田中美衣選手が貢献



左から南條和恵監督・朴澤学長・田中選手・阿部副学長＝学長室

9月1日（日）、ブラジル・リオデジャネイロで「2013年世界柔道選手権大会国別団体戦（女子）」が行われ、日本女子代表チームが見事金メダルを獲得しました。OG たなかみき 田中美衣選手（了徳寺学園職／平成22年体育学科卒一京都成安高校出）も日本女子代表チームの主将として出場し、チームの優勝に貢献しました。

9月20日（金）田中選手は、本学女子柔道部の南條和恵監督と共に、同大会団体優勝の報告に学長室を訪れました。朴澤学長と阿部副学長から田中選手に対し、労いと称賛の言葉が贈られました。

田中選手は「団体戦では優勝がチームとしての目標だったので、達成できて本当に嬉しい」と素直に喜び、「個人戦（63kg級）では準々決勝で敗退。これから世界で戦っていくためには、得意の寝技だけではなく、立ち技も重視していきたい。自分の柔道スタイルを変え、新しい技を習得したい」と話し、更なる闘志を燃やしていました。

南條和恵監督は「田中には長く現役を続けてほしい。そのためには、もっと練習して強くなるという決意と覚悟が必要になる。心身共に大変厳しいことだが、勝ち続け、今後も日本代表に選ばれ続けてほしい」と話し、教え子の成長に期待を寄せました。

仙台大学プレゼンツ VEGALTA DANCIN' FESTA 2013



9月28日（土）のベガルタ仙台のホームゲーム前に「仙台大学プレゼンツ VEGALTA DANCIN' FESTA 2013」というイベントが行われました。

このイベントは、本学とベガルタ仙台の提携事業の一環として、柴田助教・笹生講師担当の「スポーツマネジメント演習」受講者（体育学科スポーツマネジメントコース2年生）19名が企画・運営を行いました。

この演習では6つの班がそれぞれ企画を提案し、コンペの結果ダンス企画が採用されました。そこから予算案の作成、大道具の手配、当日の役割分担などをすべて学生たちが決め、さらにダンス大会に参加してもらおう各大学（仙台大学ブレイキン、宮城教育大学、仙台白百合女子大学、宮城学院女子大学）に対する細かい連絡・調整も学生たちが行いました。

企画当日はまさに秋晴れ。各サークルの応援者や、たまたま通りかかったサポーターたちがステージを囲み、一時は100人ほどが迫力のあるヒップホップダンスに見入りました。また、本学新体操競技部の河野未来監督も審査員として参加してくれました。

審査の結果、優勝したのは、宮城教育大学。本学のブレイキンは惜しくも優勝を逃しましたが、宮城教育大学はブレイキンに憧れて参加を決めてくれたチームでした。

当日になって様々なハプニングが発生し、この企画を通じて学生たちはスポーツマネジメントの難しさと面白さを体感できたと思います。この中から、将来のベガルタ仙台のマネジメントを行うような人材が生まれることを期待しています。

<報告：講師 笹生心太>

“ザ・シティ・オブ・トーキョー！” —2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定—

1. 決定の瞬間

“The International Olympic Committee has the honor of announcing that the Games of the 32nd Olympiad in 2020 are awarded to the city of ...”

ジャック・ロゲIOC会長が開催都市の書かれたカードを封筒から取り出しながら、最後の一言を読み上げた。「トーキョー！」。



「ザ・シティ・オブ・トーキョー！」の瞬間（東京商工会議所ビルにて／阿部篤志撮影）

連携大学をはじめとする関係者等で埋め尽くされた東京商工会議所ビルの特設会場では、みな一斉に立ち上がり、歓喜に沸き返りました。私は2016年招致の時、IOC総会が開催された現地コペンハーゲンで落選を目的に、今回の招致成功にはなおさら大きな喜びがこ

み上げましたが、それを内に押さえ込みながら、「さあいよいよこれから。この光景をしっかりと目に焼き付けておこう」という気持ちでその瞬間を過ごしました。

2. 仙台大学の取り組み

「Monthly Report」Vol.85（2013 MAY）で報告した通り、仙台大学は2013年5月、東京都及びTOKYO2020招致委員会との招致活動に関わる連携協定を締結し、事業戦略室を中心に様々な取り組みを進めてきました。

連携協定締結後における主な招致支援活動

時 期	内 容
5月23日	東京都・招致委員会との連携協定締結
6月10日～	招致PRポスターの学内掲出、横断幕・のぼり旗の設置による啓発
6月18日	柴田町スポーツ振興室との連携・調整による、町スポーツ関係者・指導者への広報用バッジの配布・啓発
6月16日～23日	本学新体操部が交流締結しているベラルーシ共和国国立体育・スポーツ学院訪問時における朴澤学長からの招致計画紹介及び意見交換
7月3日	利府高校の一日総合大学での講義「TOKYO2020から考える、これからのスポーツ」の実施
7月6日	柴田町スポーツ振興議員連盟研修会及び平成25年度仙台大学同窓会総会における招致PR
7月13日～20日	学科一日体験会での招致PR

時 期	内 容
8月3日	約1,100名が来場したオープンキャンパスにおける招致PR及びTOKYO2020招致支援学生アンバサダーによる「TOKYO2020×仙台大学」活動展の実施
8月6日～8日	学生アンバサダーによる仙台セタまつりでの招致ブース運営支援
8月7日	米国カリフォルニア州立大学ロングビーチ校からの短期交換留学生と本学学生との日米合同TOKYO2020招致フォーラムの実施
8月31日	本多弘子氏（本学元教授）叙勲を祝う会における招致PR

本学には、TOKYO2016の招致活動を通して、学生たちが筑波大学や専修大学、流通経済大学等の学生と連絡を取りあいながら、勉強会などを重ねてきた経緯があります。彼らは卒業後の今も、互いに連絡を取り合いながら、新たなチャレンジを続けています。そこから私たちは、招致の成否に関わらず、招致過程を好機と捉え、学生が「スポーツの価値」に改めて向き合い、そこから得られた気づきや理解をいかに自ら体現していくことができるかが重要であることを学びました。

今回は連携協定の枠組みの中で、さらに幅広く招致に関わる活動が展開されたことで、そのような「無形のレガシー」が多く遺されたのではないかと感じています。本学では独自の取り組みとして、4名の「TOKYO2020 招致支援学生アンバサダー」を任命しました。彼らが中心となり、米国大学院生との招致フォーラムを企画・実施したり、招致委員会スタッフと一緒に招致ブースを運営しながら市民の声に耳を傾けるなど、学生自らの主体的な実践を通じて学びを得られるように設えました。この取り組みは、国内86の連携大学にニュースレターで配信されました。



【6面に続く】

3. 7年後に向けて

1964年東京オリンピック開催に向けたソフト・ハード両面の準備と成果が、その後の50年間の日本のスポーツの在り方を決めてきました。日本体育協会の指導者養成制度もTOKYO1964のレガシーの一つです。

そして今、グローバル化したスポーツは、様々な歴史上の課題に直面しています。勝利至上主義によるドーピングや不正、賭博、若者のスポーツ離れ、アスリートのキャリア問題、指導者の暴力問題など、いずれも私たちにとって無関係ではありません。むしろ、スポーツを専門領域とする大学として、7年後に向けて取り組んでいかなければならないことが多くあると思います。

特に、トップスポーツと地域スポーツがともに成熟していくためにも、そのつながりや好循環をいかに創出するかということが課題であり、地域から世界をみる視点においては、本学が果たす役割が大きいのではないかと考えています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催される7年後に向けて、歴史的にも重要になるであろう、世界から私たちに与えられたこの時間を有意義に過ごしながら、それぞれの立ち位置から新たな半世紀の礎を少しでも築ければ良いと思います。

<報告：講師 阿部篤志>

2020年オリンピック・パラリンピック開催地決定にあたっての学長コメント



決定後、ビル1階に掲示された「開催決定ポスター」
＝写真提供：阿部篤志講師

2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決まったことを受けて、仙台大学の朴澤泰治学長より以下のコメントがありました。

「招致委員会と協定を締結して応援してきた大学として、大変嬉しく思います。成功に向けて体育系大学の機能を発揮して、今後も貢献していきたいと考えております。」

仙台大学は、東京都スポーツ振興局招致推進部及び東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会と、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動における連携協定を締結し、招致活動に協力して参りました。

本学は、今後も2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて、連携を続けて参ります。

元気！笑顔！未来！2013東北こども博—10月12日(土)・13日(日)に開催決定



2013東北こども博のポスター

仙台大学・一般社団法人日本玩具協会、柴田町等で構成される東北こども博実行委員会は、来たる10月12日(土)・13日(日)の二日間、仙台大学キャンパスにおいて「2013東北こども博」を開催致します。

このイベントは、大震災からの一日も早い復興を祈り、被災地の子どもたちがおもちゃで思いっきり遊び、スポーツで存分に体を動かすことで、その健やかな成長と笑顔の広がりを願う大型イベントとして、2011年10月に初めて開催し、今年で第3回目となります。

入場は無料ですので、皆さまお誘い合わせの上、ぜひご来場下さい。

体操競技部、第67回全日本学生体操競技選手権大会 —男子1部団体総合で2年連続3位



銅メダルを手にガッツポーズを見せる仙台大学男子体操競技部団体メンバー
＝仙台大学体操場

8月31日（土）、北九州市立総合体育館（福岡県）で「第67回全日本体操競技選手権大会」の男子1部団体総合むらかみゆうとが行われ、村上雄人（体育学科3年—東京・明星高校おぼらたかゆき出）・小原孝之（体育学科3年—京都・洛南高校出）が活躍した仙台大学男子体操競技部が合計428.700点で2年連続3位に入りました。

鈴木良太監督（写真右端）は「順天堂大学・日本体育大学の上位2校に勝つために、一人一人の意識を強くする必要があると考えている。普段の練習の中で、上を目指すという意識やミスをしないという意識を高めていきたい」と今後の抱負を話し、日本体操協会U-21強化指定選手の小原孝之主将（写真前列右端）は「2年連続で3位に甘んじている。上位2校とは技術的・精神的にも実力差を感じている。来年こそ悲願の団体総合優勝を目指して、チーム一丸となって頑張りたい」と気を引き締めながら話しました。

なお、同選手権大会の女子2部団体総合では、仙台大学女子体操競技部が合計237.500点で見事優勝を果たしました。

11年ぶりの全国大会出場 女子ソフトボール部インカレ初戦敗退



9月7日（土）、大阪府寝屋川第2野球場において「文部科学大臣杯第48回全日本大学女子ソフトボール選手権大会」が開催され、本学女子ソフトボール部が11年ぶりとなる全国大会に駒を進めました。結果は13対0、5回コールドで日本福祉大学に惨敗しました。しかしながら11年ぶりの全国大会出場とあって埼玉からも先輩が駆けつけ、保護者の方々も会場で大きな声援を送ってくださいました。来年は着実に力をつけ全国場で活躍することが期待されます。あたたかいご声援ありがとうございました。



女子ソフトボール部主将
いいつかともこ
飯塚朋子さん（体育学科4年—
福島・磐城農業高校出）

富士大学や東北福祉大学を破って全国大会への切符を手にしたかったのが本音ですが、第3代表として11年ぶりにインカレに出場でき、大学生活を締めくくるのは、4年間目標にしていたことなのでとても嬉しいです。

現在、チームは少ない人数ながらも、明るく楽しく、プライベートでも学年の垣根を越え仲が良いので、さらに部員数が増えてほしいと思っています。来年は隣県である岩手県が全国大会の会場となるため、また全国に進めるよう後輩たちに想いを託したいと思っています。

サッカー日本女子選抜ミャンマー遠征に本学女子サッカー部から加賀孝子と須永愛美が選出



ミャンマー遠征に向け、練習に励む須永(左)と加賀
=仙台大学サッカー・ラグビー場

か が こ う こ
仙台大学女子サッカー部のMF加賀孝子(スポーツ情報
マスメディア学科2年—ジェフユナイテッド市原・千葉レ
す な が ま な み
ディース出一宮城・聖和学園高校出)とDF須永愛美(体育
学科1年—J F Aアカデミー福島出)が、9月12日(木)~9月
22日(日)に行われるサッカー日本女子選抜ミャンマー遠征
のメンバーに選出されました。

ユニバーシアード日本代表のMF加賀は「7月のユニバーシアード大会は5位に終わった。チームの勝利に貢献できるよう頑張りたい。優勝して日本に戻りたい」。国際大会に初選出されたDF須永は「国際試合を経験することは、自分自身を大きく成長させる貴重な機会であると考えている。失敗を恐れず、積極的なプレーで、自分から仕掛けていきたい」とそれぞれ抱負を力強く語りました。

加賀と須永への温かいご声援を宜しくお願い致します。



第14回東北大学バスケットボールリーグ一部1次リーグ



中村がタフショットを決め、リードを広げる
=東北学院大学泉キャンパス体育館

9月7日(土)、東北学院大学泉キャンパス体育館で「第14回東北大学バスケットボールリーグ兼全日本大学バスケットボール選手権大会東北予選会」が行われ、仙台大学バスケットボール部は男女ともに、東北学院大学と対戦しました。

男子は点の取り合いとなりましたが、仙台大学
は た ざ わ て つ べ い
ペースで試合が進み、畑澤哲平(体育学科3年—秋田・能代工業高校)がセカンドリバウンドを多くとり、東北学院大学にセカンドシュートを与えず、前半を39-34と5点リードで折り返しました。

しょうじゆうや
後半、庄司優也(体育学科3年—山形・羽黒高校
な か む ら ゆ う と
出)・中村優斗(現代武道学科1年—宮城・明成高校出)が着実に得点を重ね18点差までリードを広げましたが、東北学院大学からオールコートディフェンスにプレッシャーをかけられ、次々に3Pシュートを決められました。遂に1点差までに追いつかれ、仙台大学がフリースローを1本落とし、東北学院大学がシュートを決め、75-75の同点で延長戦へ突入しました。

延長でも東北学院大学に3Pを連続で決められ、仙台大学も粘りを見せましたが、最後は82-83の僅か1点差で試合終了。

女子も激しい攻防戦の末、延長戦に突入する見応えあるゲームとなりました。仙台大学が東北学院大学に65-58で勝利し、シーソーゲームを制しました。

仙台六大学野球秋季リーグ戦第三節一勝ち点を2に伸ばす



リーグ戦初登板を果たした田代敏史投手(9月14日・宮城教育大学1回戦)
=東北福祉大学野球場

仙台六大学野球秋季リーグ第3節の9月14日(土)・15日(日)、東北福祉大学野球場で「仙台大学—宮城教育大学」の1・2回戦が行われ、仙台大学が連勝し、勝ち点を2に伸ばしました。

1回戦は、3番柳田恭平やなぎだきょうへい(体育学科4年—北海道・鶴川高校出)が4打数4安打2打点、代打たかはしこうすけ高橋孝輔(体育学科3年—秋田・金足農業高校出)が二死満塁から3点二塁打を放つ活躍で、12—1の六回コールドで宮城教育大学のぐちりょうたを下しました。投げては、先発・野口亮太(体育学科3年—群馬・前橋商業高校出)がリーグ通算17勝目を挙げ、リリーフたしろとしふみ田代敏史(体育学科4年—栃木・作新学院高校出)がリーグ戦初登板を果たしました。

2回戦は、先発投手の荒木雄哉あらかきゆうや(体育学科1年—長崎・清峰高校出)が要所を締め、宮城教育大学打線を無得点に抑え、2—0(六回降雨コールド)で下しました。

硬式野球部—開幕6連勝で「勝ち点3」／仙台六大学野球秋季リーグ戦



力投する金澤光基投手(9月22日・東北大学2回戦)
=東北福祉大学野球場

9月21日(土)・22日(日)、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球秋季リーグ第四節2回戦「仙台大学—東北大学」が行われ、仙台大学は10—3(七回コールド)で東北大学に快勝しました。

これで仙台大学は、開幕から無傷の6連勝で勝ち点を「3」に伸ばし、東北福祉大学と東北学院大学に勝ち点3で並んで勝率で上回り首位に立ちました。

東北大学2回戦では、3番・松本桃太郎まつもともたろう(体育学科1年—北海道・北海高校出)が2試合連続本塁打うすいしん、5番指名打者・薄井新(体育学科2年—栃木・矢板中央高校出)が4打点の活躍。投げては、先発左腕・金澤光基かなざわみつぎ(体育学科4年—北海道・札幌創成高校出)が序盤に3点を失いますが、3回以降は無失点に抑える粘り強い投球を見せました。金澤は、打線の援護にも助けられ、今季2勝目を挙げました。

仙台六大学野球秋季リーグ戦(試合会場：東北福祉大学野球場)で仙台大学は、9月28日(土)・29日(日)に東北福祉大学、10月5日(土)・6日(日)に東北学院大学と対戦する予定です。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援をよろしくお願い致します。



松本が2試合連続本塁打を放つ(9月22日・東北大学2回戦)
=東北福祉大学野球場

男子ハンドボール部—1部残留決定



佐々木祐助が強烈なシュートを放つ(9月14日・福島大学戦)
＝フラップ大郷 2 1



1部残留を決め、喜ぶ男子ハンドボール部の選手ら
＝東根市民体育館

9月16日(月・祝)、東根市民体育館(山形県東根市)で東北学生ハンドボール秋季リーグ戦「仙台大学—東北大学」が行われ、同試合は、勝った方が1部リーグ残留の一番となりました。仙台大学は後半、相手の猛追を許しましたが、大接戦の末、18-17(前半12-7、後半6-10)の1点差で勝利。

むらきりょうた

苦しみながらも、村木亮太主将(体育学科4年—

ささきゆうすけ

福島・尚志高校出)・佐々木祐助(体育学科4年—宮城・聖和学園高校出)を中心に4年生が奮闘。

たけだなおや

GK武田直哉(現代武道学科3年—山形・東根工業高校出)が好セーブを連発しました。

試合終了後、村木主将は「1部リーグ残留が目標だった。最後まで集中力を切らさなかったことが勝因。チームの成長を感じた」と試合を振り返り、「チームの主将として苦労が多かった分、1部リーグ残留を決めた時は、格別の喜びと達成感が込み上げてきた」と充実した表情で話しました。

なお、女子ハンドボール部も福島大学との入れ替え戦に勝利し、Aリーグ残留を決めました。

みやうちはるか

宮内悠(運動栄養学科4年—茨城・麻生高校出)がベスト7に輝きました。

女子バスケットボール部、「宮城県総合バスケットボール選手権」を制す



高橋が落ち着いてシュートを決める(東北学院大学戦)
＝仙台市青葉体育館

9月23日(月・祝)、仙台市青葉体育館で「宮城県総合バスケットボール選手権(女子)」の準決勝と決勝が行われました。準決勝で仙台大学は、67-59で東北学院大学に勝利。決勝は、仙台大学が聖和学園高校を追い上げて、最終クォーター残り17

たかはしなお

秒で高橋奈央(体育学科3年—岩手・一関学院高校出)がシュートを決め、息詰まる接戦を73-72で制しました。仙台大学は、見事な逆転勝利を収め、3年ぶりに「優勝」を飾りました。

はなだはるか

準決勝・決勝では、中でも高橋奈央・花田遥歌(体育学科3年—青森・柴田女子高校出)・

いとうみずほ

伊藤瑞穂(体育学科3年—秋田・明桜高校出)らの活躍が光りました。

仙台大学女子バスケットボール部は、11月8日(金)～10日(日)に山形市で開催される「東北総合バスケットボール選手権」に宮城県代表として出場します。

引き続き、仙台大学女子バスケットボール部への温かいご声援を宜しくお願い致します。